豊島区立中央図書館報

豊島区

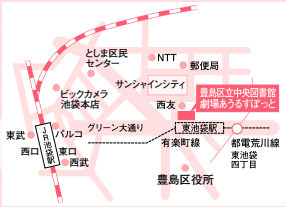
図書館通信（としょかんつうしん）

第58号
季刊（冬）
2021

発　行●豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四－五－二
ライズアリーナビル四階・五階　〒一七〇－八四四二
電　話●〇三－三九八三－七八六一
FAX●〇三－三九八三－九九〇四
ホームページ●https://www.library.toshima.tokyo.jp/
発行日●令和3年1月

トピックス

●巻頭言　公益財団法人としま未来文化財団　壱岐　國芳・・・1ページ
●こらこらコラム　ほぼ日の学校長／編集者　河野　通和・・・1ページ
●図書館と私　豊島区立仰高小学校　岩井　まゆ・・・2ページ
●生涯の一冊　東京ガス　東京東支店　島藤　寛・・・2ページ
●この本カフェ・・・2ページ
●古代オリエント博物館　館長　月本　昭男・・・3ページ
●映画のまち「としま」　青木　滋・・・3ページ
●図書館イベント情報・図書館カレンダー・・・4ページ



巻頭言

『時代を変える 図書館サミット』の精神を今一度

公益財団法人としま未来文化財団
壱岐（いき）　國芳（くによし）

「いい本に出会うということは、その人間を変えることになる。5冊でも10冊でも、そういう本に出会った人間はまったく違う人種になってゆく」。

これは中央公論や東京人の編集長として戦後日本の論壇と作家たちを育てた故・粕谷一希さんの言葉だ。その粕谷さんが豊島区の図書館行政政策顧問として豊島区立中央図書館の新発足に尽力され、2008年に『時代を変える 図書館サミット』という意欲的シンポジウムを企画し実行委員長となり、中央図書館を事務局として本関係の全国の各界へ強いメッセージを発信したことを、皆さんは覚えてくれているだろうか。世界が激変して迎える新年に当り、初心にかえり粕谷さんが抱いた活字文化への危機感を思い起こしたい。

当時私は民間会社員だったが粕谷さんから「手伝ってくれないか」とお声が掛り、実行委員に加わった。秋田県の音楽ホールの経営再建に携わった私への光栄なご指名だった。私は早速、いま豊島区図書館専門研究員を務めておられる水谷千尋さんとともに大手出版社を軒並み訪問し協力要請したが、その過程で粕谷さんの「図書館に期待する役割」についての強い思いに接した。以下その一部を列記し、ご紹介したい。

「教育と共に図書館の活性化は自治体と地域社会の死命を制する」。「図書館業務の中心は選書にある」。「図書館は、真の自由な読書人の養成に努め、その拠点となるため、勉強会・見学会・講演会・シンポジウムを不断に開いてゆく必要がある」。

粕谷一希さんは、次のようにも語っておられた。「本当の読書というものは、本当の知己、本当の友達に出会うことだと思うのです。古今東西、生きている人だけではなく死んだ人でも、その書物に出会うことで友人になることができる」と。

新型コロナ禍で人間関係が疎遠になりがちな時代だからこそ、図書館は選書と企画に励み、私たちを「古今東西の友人」へ誘（いざな）ってくださることを期待致します。

新航路【55】

新年明けましておめでとうございます。

昨年10月、「としま文化の日条例」が施行され、11月1日を「としま文化の日」と定めました。その第一条には、豊島区や区民、さまざまな主体が連携し、一体となって、これまで育んできたとしまの文化を次世代に継承すると明記されています。

区内にはたくさんの素晴らしい文化があります。

赤ちゃんから大人まで、誰もが自由に利用できる区立図書館も、こうした文化の魅力集積と発信の拠点として様々な文化の担い手と連携を図り、共に文化を育む役割を担っています。

また、区立図書館には、館ごとに資料収集テーマがあり、地域の特色を生かした資料収集も行っています。今では手に入らない貴重な資料も数多く所蔵しており、これらの保存はもちろん、その価値と活用を継承していくことも重要なテーマです。

2021年は図書館員ももう一歩外に飛び出し、文字・活字の素晴らしさ、そしてとしまの文化の魅力を多くの人に伝える、そんな1年にしたいと思っています。

今年も区立図書館をよろしくお願いします。

第45号（平成29年7月）から連載が始まった巻頭エッセイが本号で最終回となります。
ほぼ日の学校長／編集者　河野通和氏に代わり、第59号（令和3年4月）からは、テレビやラジオの最前線でご活躍後区内大正大学の表現学部教授であったNPO法人「としまの記憶」をつなぐ会 副代表理事小櫻英夫（こざくら　ひでお）氏にご寄稿いただきます。

こらこらコラム

第14回

街に新たな人の動きを

ほぼ日の学校長／編集者　河野　通和

勤め先が引っ越しました。これまでの港区北青山から千代田区神田錦町への移転です。

私の仕事場（ほぼ日の学校）も新社屋のすぐ近くのビルの2フロアを借りることになりました。来春からはこれまでとまったく違った規模・内容の学校に一新していく予定です。そんなこんなで慌ただしい日々が続いていますが、神田という街は、なんとも雑多な要素が入り混じり、おもしろい場所だとワクワクします。

テナントとして「ほぼ日の学校」が入るのは、百年以上の歴史を持つ印刷会社の建物で、それを大規模改修した2、3階。界隈は日本の大学の源流がここに発した場所でもあり、学士会館旧館の正面玄関のすぐ脇には「東京大学発祥の地」という記念碑が見つかります。由緒ある場所へダイブしたものだと思います。もちろん神保町は「本の街」。新刊書店や世界最大規模の古書店街が軒を並べ、多くの出版社が存在し、本好きにはたまらない楽園です。大学や各種の学校も点在し、食べもの屋さんは多種多様。近隣には大新聞社が4つあり、丸の内、大手町のビジネス街、そして皇居にもほど近く、ニコライ堂や湯島聖堂、神田明神、神田教会など多様な宗教施設も擁します。地下鉄、JRなど公共交通機関がたくさん乗り入れていることも特徴です。

そんな場所に来たのですから、この地の歴史的な古層から、またここを行き交う人たちからエネルギーや滋養を吸収し、私たち自身もパワーアップして街に新しい風を吹き込むことができればと願います。会社がここにある、ということだけでなく、「公共性」の視点をこれまで以上に意識して、実際の行動につなげていきたいと思います。ご近所への挨拶まわりも始めていますが、街との交流をどう深めるか、私たちのアイディアが試されます。

次世代の住みよい街づくりは、〝コロナ後〟に改めて大きなテーマとなるでしょう。その時、人と街とのハブになる〝場〟の持つ役割は重要です。街とともにある豊島区立中央図書館のさらなる発展を祈りつつ、このコラムの最終回にしたいと思います。

としま未来文化財団・事業企画課長。1980年早稲田大学卒業後、生命保険会社に入社し、教育事業や文化事業経営も経験。退職後2019年10月から現職。人形アニメーション作家・川本喜八郎氏と持永只仁氏の研究家。日本の人形アニメーション映画発祥地は南池袋2丁目であることを論証し発表。

生涯の一冊（56）

■『1964年の東京パラリンピック』
佐藤　次郎／著
紀伊国屋書店　2020年

東京ガス　東京東支店
島藤　寛（しまふじ　ひろし）

1994年東京ガス入社。ガスに関わる保安・防災実務や企画業務に従事後、2019年より現職場にて各行政の広報・広聴担当として地域貢献の一翼を担う。趣味は楽器演奏（サックス）や吹奏楽の指揮。

未来を創り描く街で

プロフィールの通り、スポーツと無縁な私に「オリンピック・パラリンピックを支える人たち」というテーマでご依頼をいただいたのは、昨年11月3日Hareza池袋パークプラザにて行われた、豊島区主催【世界をひとつにする「スポーツ」と「伝統工芸」と「文学」と】にパラスポーツ写真の展示立ち合いとして参加した数日後のことだった。

オリンピックをテーマに、豊島区と関わる世界各国の文化を日本の伝統工芸である着物の装いで紡ぐこのイベントでは、「文化」と「スポーツ」という一見ミスマッチとも思えるキーワードを創造豊かに、また華やかに描くことで、あのブリリアホールへと続く赤い階段に集う人々のだれもが笑顔になっていく。私もそのひとりだった。

スポーツを通じて文化や人を知る。私が勤務する東京ガスは障害者スポーツの支援等を通じ、多様な人々が心豊かに暮らせる共生社会の実現に貢献してきた。今回のようなイベントに参加する事で様々なバックボーンやドラマを知る機会も多いが、この度紹介させていただく1冊は1964年に開催された東京パラリンピックにまつわる、まさに日本でスポーツと文化が交わり、創造された瞬間を丁寧に描いたものだ。

日本において、もっぱら障害者への医療は専用施設にとどまることが最適としていた時代、医師である中村裕はリハビリテーションにスポーツを取り込んだイギリスの先進的な医療に衝撃を受ける。これ以後、中村は持ち前の行動力により1964年東京パラリンピック開催までこぎつけるのだが、この文化の吸収や発展がスポーツ界のみならず医療や企業における障害者採用にも大きく影響を及ぼしていく。まさに共生社会の幕開けといってもよいだろう。

最後にステージを現代の豊島区に戻そう。「国際アート・カルチャー都市」「SDGs未来都市」としてめざましい文化の発展を遂げるこの街が、スポーツや芸術を通じてすべての人々のことを想い次の世界を創り描くことに期待し、私も微力ながらお役に立てればと思っている。

図書館と私㊸

豊島区立仰高小学校６年
岩井　まゆ（いわい まゆ）

【プロフィール】
小学校1年生から「図書館を使った調べる学習コンクールinとしま」に取り組み、連続入賞。全国大会でも入賞経験をもつ。

終わりなき本との旅

「♪おかーをこーえーゆこーおよー♪くちーぶえーふきつーつー♪」

約10年前、父の自転車のイスに乗り、この歌を歌いながら暇さえあれば通っていた所、それが図書館だ。お話し会や工作のイベントにも参加し、2歳くらいの私にとって、そこは楽しいことがいっぱいの大好きな場所だった。

「はい、おしまい。おやすみ」

寝る前に必ず母が読み聞かせてくれたのもまた、図書館の本だった。

あれから10年以上が経過したが、いまでもその行動パターンはあまり変わっていない。変わったのは自転車を自分でこぐようになったことと、寝る前の本を自分で読むようになったことくらいだ。生まれたときからずっと、私の生活の中にあるもの、それが図書館なのだ。

本は楽しい。夢中で本を読み、その世界に入り込むとまるで自分が本の中にいる気分になる。本の旅だ。その経験は、現実で壁にぶつかったときも「こういう考え方もできる」「こんな方法がある」と、視野を広げてくれる。

「過去と他人は変えられない。未来と自分は変えられる」。カナダの精神科医エリック・バーン氏の言葉だ。様々な場面で登場人物の心情に触れるとき、この言葉が心に突き刺さる。

小学生になった私の夏休みの長期滞在地はハワイでも軽井沢でもなく図書館だった。目的は「調べる学習コンクール in としま」。夏休みの初めにテーマを決め、父と自転車で図書館巡り。これを何日も繰り返す。10年前、歌いながら自転車をこいでいた父は、熱中症警報の出る中、たくさんの重い本を運ばされる人になった。借りてきた大量の本とともに、「調べる学習」がスタートする。流れに沿い、ひたすら50ページを編んでいくこの例えようのない楽しい学習の機会を与え、やり遂げることの喜びを教えてくれたのは図書館の本たちだった。

小学校生活もゴールが見えてきた。私は、中学生になっても、図書館で様々な本との出会いを繰り返し、本と一緒に心の旅を続けたい。

Café KONOHON この本カフェ

22杯目

コロナ危機の不安の中、私たちの心を和らげてくれることのひとつは読書。ノンフィクションは現実の見方を刷新させ、物語は夢と希望の種になる。皆さんは今、どんな本を読んでいますか。

今回のテーマ
希　望

書名『日本進化論』
落合陽一著　SBクリエイティブ　2019年

衰退の日本に復活の余地はないのか。メディア・アーティストの落合陽一が「平成最後の夏期講習」での議論を紹介。日本が抱えている労働人口の減少、母子家庭の貧困、医療や介護費用の抑制、インフラの再活用、地域コミュニティ形成で高齢者が勤労世帯を支える、AI導入での行政効率化などで浮いた国家予算をR&D、人材開発など未来投資に再配分すれば日本が復活するなどのトピックの数々で、既存のものを最大限に活用する重要性に気づかされました。

【辻　秀幸（つじ ひでゆき）】

書名『人類 vs 感染症』（岩波ジュニア新書）
岡田晴恵著　岩波書店　2004年

紀元前から続く多様な感染症の盛衰、それぞれの時代を反映した人間と社会の行動模様を述べた、人類と感染症との戦い文明史。無知と差別、貧困、欲望、尊厳、英知などを交錯させながら、人々は生活や文化を変えてきた。しかし、感染症は決して終わらない。新型ウイルスは変幻自在に生まれ、感染は神出鬼没のごとし。新たな危機管理を提言し、「感染症から身を守ることは、自分と周りの人々の命を大事にすることだ」と結ぶ。道は、共感、共存ということか。

【杉岡　敏弘（すぎおか としひろ）】

書名『革命前夜』
須賀しのぶ著　文藝春秋社　2015年

コロナにより世界中が混乱している今から、30余年前の物語。日本が平成になった日に、バッハに憧れ自分の音を求めて、東ドイツに留学したピアニスト眞山。物資は欠乏しているが、音楽は豊かな国で、才能ある留学生と交流する。冷戦下の国は監視社会だが、抑圧と監視からは何も生まれない。自由を願う人々により、ベルリンの壁崩壊。音は最も原始的なもの、人の本能に突き刺さるもの。作品の底に流れる音楽が激動の時代を映し出す。

【内田　美津子（うちだ みつこ）】

寄稿者はとしまコミュニティ大学の内、登録して学んでいる「マナビト生」です。マナビトゼミ担当の人類学者佐藤壮広氏の監修のもと、毎回テーマに合わせて文学、児童書、科学や評論などの分野のお薦め本を紹介しています。

古代オリエント博物館

第2回

楔形文字から アルファベットへ

公益財団法人　古代オリエント博物館
館長　月本昭男

絵文字から楔形文字へ

人類最古の文字は古代オリエントで生まれました。古代メソポタミアの人々は、古来、動物や物品の管理に粘土駒（トークン）を使っていました。羊が100匹いれば、羊の粘土駒100個を、麦を貯蔵する壺が10あれば、壺の粘土駒10個を作ったのです。ところが、粘土板に羊や壺を表す絵と数字を刻めば、粘土駒を作る必要はない、と気づいた人がいたのです。こうして人類最古の絵文字が考案されました。前3200年頃のことです。

しかし、柔らかな粘土には、曲線より直線のほうが簡単に引けます。そこで直線の組み合わせで絵文字を表すようになりました。直線は、三角形の割り箸のように削った葦の棒の先を粘土板に斜めに押しつけて刻みましたので、細長い楔のような三角形になります。この文字が楔形文字と呼ばれる所以です。

絵文字を刻んだ粘土書板（前3200年頃）

文字の機能

文字は文明の発達に大きな役割を果たしました。文字にした情報は遠くまで正確に伝わります。文字によって正確な記録が残されれば、社会に計画性が生まれます。過去の記録があれば、凶作を乗り切るための食料備蓄の量が計算できるでしょう。また、慣習や決まり事は文字に明記されると、より客観性をもった法律となります。文字に書き表された祈りや願いは詩になり、口頭伝承から物語が紡ぎ出されます。こうして詩歌や文学が生まれ、人々の間に豊かな精神世界が広がります。無文字社会にも詩歌と文学は口承で伝わりますが、記憶が薄れれば、消滅してしまいます。アイヌの人たちの素晴らしい口承文芸が今日に残るのは、それが文字に書き残されたからでした（知里幸恵『アイヌ神謡集』岩波文庫）。

楔形文書の種類

楔形文字を刻む文書類は多岐にわたります。家計から国庫までの出納記録、兵士や奴隷の記録、戦利品や神殿奉納品一覧などは経済文書また行政文書と呼ばれます。法の世界では、ハンムラビ法典が有名ですが、裁判記録も知られます。

ハンムラビ法典128条に「女性をめとっても、契約を結ばなければ、妻と認められない」と定められていますが、古代メソポタミアは契約社会でした。国家間の条約は言うにおよばず、結婚や養子縁組から貸借や不動産売買まで、大量の契約文書が残されました。書簡の類は数え切れません。

神々讃歌、祈り、儀礼などを記した宗教文書、『ギルガメシュ叙事詩』をはじめとする神話や文学は、大型の粘土板に刻まれました。占い文書は天体や鳥獣の動きから夢や骨相におよびます。王の事績を刻む碑文や年代記は、今でも、重要な歴史資料です。

このように多岐にわたる文書は、粘土板に刻まれたために、現在まで残りました。重要な粘土書板は焼き固めましたので、石碑同様、土に埋もれても、消滅しなかったのです。このような書板が集められた人類最初の図書館については、本シリーズの第一回に紹介されています。

楔形文字（前）とアルファベット（後）で記録するアッシリアの書記（前9世紀）

アルファベットの登場

ところが、楔形文字はいささか複雑な文字体系でした。頻繁に用いる文字数が400ほどで、日本語の漢字と同じく、音読みと訓読みがあり、文脈によって読み替えが必要でした。たとえば「目」を表す文字は、shi, igi, iimなどの音読みのほかに、訓読みで「前」「顔」「証人」「千」「見る」「示す」「受け取る」などを表しました。ですから、読み書きできる人は限られました。

そこで前1400年頃、古代オリエントの一隅で、22の音表文字からなる、より簡便なアルファベット文字が考案されることになりました。前1千年紀に、この文字は古代オリエント世界に普及し、西はギリシアやローマに伝わり、私たちが使うアルファベットのもとになりました。東に伝わった文字は、インドのカロシュティ文字やモンゴル文字になりました。中国で漢字が発達していなければ、このアルファベットの子孫が日本にも伝わっていたことでしょう。

◆

執筆者紹介
1948年長野県生まれ。東京大学・独テュービンゲン大学修了。現在、上智大学特任教授、古代オリエント博物館館長。著書に『ギルガメシュ叙事詩』『古代メソポタミアの神話と儀礼』『物語としての旧約聖書』ほか。

※新型コロナウィルスの影響により本年度の図書館通信発行スケジュールが変更となりました。そのため、当初４回としておりました本連載が今回で最終回となります。

映画のまち“としま”

第2回

白鳥座は目白の文化人たちの夢だった

青木滋

私の父は昭和28（1953）年6月から目白駅そばで白鳥座という映画館を始めました。場所はいまの私の会社のあるところです。（目白3－4－5）定員は200人ぐらいだったと思います。上映記録は残っていませんが、最初は『女王戴冠』と『栄光何するものぞ』でした。『明治天皇と日露大戦争』の時はトラックの荷台に私も乗り宣伝したことがあり、その甲斐あってか満員が続きました。『シェーン』も人気がありまして、近くの美容室が店名にしたようです。石原裕次郎映画はよく入りました。

なぜ父が映画館経営をしたのか。それには二つのことを説明せねばなりません。一つ目は「目白文化協会」と、いうもので、目白近辺に住む文化人が中心となって、戦後の目白を文化的な町にしようと集い、目白に住む尾張徳川家の徳川義親氏が中心となっていました。その会員の中には絵描き、作曲家、小説家そして都市計画が専門の石川栄耀氏がいました。

二つ目がこの石川栄耀氏の活躍で、街づくりを専門とし、都の都市計画に環状道路や首都高速や広場の計画を指導し、その広場には映画館がなければならない、という主張が父の気持ちを動かし映画館を始めたようです。白鳥座の名付け親は石川氏だそうです。

いまでは珍しくはありませんが洋画吹き替えを自分たちでやりましたが、これは大失敗でした。また2人がけのロマンスシートと言う席がありました。男女が一緒に座れる席で、いまでも青春の思い出話にする人がいます。

演芸場としても使われたようで、柳家小さんや松島トモ子が出演した時の写真も残っています。

冒頭に記した開館の年は、テレビ本放送開始の年で、したがって、映画館が衰退し始める年でもありました。かくて、白鳥座は昭和35（1960）年に閉館をしました。天保年間に目白にあった鼠山感応寺と同じ7年の営業期間でした。

今は十葉ほどの写真が残されているのみです。

◆

白鳥座前での記念写真

〈著者紹介〉昭和24年生まれ。現在は白鳥座があった場所で印刷会社を経営。調べる学習コンクールの実行委員長、目白新聞発行委員会代表。地域歴史として鼠山感応寺、白鳥座、目白文化協会などを研究中。

毎週土曜日にみらい館大明で豊島区立図書館予約資料の受渡しを行います

ご用意のできた予約資料について、事前に図書館宛に電話またはFAXでお申し出いただくことで、みらい館大明でも資料の受け取りができます。

手続きの詳細は、図書館にお問い合わせいただくか、図書館ホームページをご覧ください。

期間　令和3年1月23日(土)から令和3年3月27日(土)までの毎週土曜日（池袋図書館休館中）
時間　午前11時～午後3時
場所　みらい館大明　（旧大明小学校）
豊島区池袋3-30-8

※予約資料によっては、みらい館大明での受渡しができないものがあります。
※感染症予防対策のため、業務を延期または中止する場合があります。

電子図書館を利用してみませんか

豊島区に在住、在学、在勤で、豊島区立図書館の利用登録がある方は、TRC電子図書館をお申込みいただけます。

ご利用には、電子図書館専用の利用者ID・パスワードが必要となりますので、中央・駒込・上池袋・池袋・目白のいずれかの図書館カウンターに有効期限内の図書館利用カードをご持参のうえ申請してください。（豊島区内に在学・在勤の方は通学先・通勤先が確認できる資料もお持ちください。）

豊島区内在住の方は、電話でのお申込みも可能になりました！ 中央・駒込・上池袋・池袋・目白の各館に直接お問い合わせください。
※池袋図書館は休館中のため、4月以降にお問い合わせください。

◉ 問い合わせ先 ◉

○中央図書館　（3983－7861）
○駒込図書館　（3940－5751）
○上池袋図書館　（3940－1779）
○目白図書館　（3950－7121）

https://www.d-library.jp/trctoshima/

中央図書館の平日の開館時間は当面の間午後８時までとなります。

中央図書館特別展示

学習院大学GCA東京×豊島区「アニメ・マンガで繋がる世界！」

学習院大学国際センターの協力により、図書館と海外の学生とのコラボ展示が実現しました。

日本のハイクオリティなアニメや魅力的なマンガ作品は、国内にとどまらず世界中に多くのファンがいます。海外の学生たちが日本のアニメ作品からどのような影響を受け、文化や社会を学び、魅了されたのか。その熱い想いをぜひご覧ください。

今年は、イギリス、ポーランド、オーストラリア、ブラジル、ペルー、メキシコ、韓国、台湾・中国、日本の学生がオンラインで研究を続け、12月に成果を発表しました。各国学生による振り返りを1月24日(日)午前11時～としまテレビ豊島区広報番組「としま情報スクエア」で放送。後日豊島区公式YouTube「としまななまるチャンネル」でも配信します。

【学習院大学GCA(グローバルキャンパスアジア)東京とは】
海外の大学生が学習院大学の学生と交流しながら日本語や日本文化を研修する短期プログラムとして2013年にスタート。海外学生と学習院生がともに一つの課題に取り組み学習する「共学」をテーマとしている。

期間　令和2年12月26日(土) ～ 令和3年2月25日(木)
会場　中央図書館5階特別展示コーナー

2016年の豊島区立目白庭園における日本文化体験

2020年ONLINEで参加する学生たち

図書館通信連動オンライン番組

「建物と本」配信中

前号の図書館通信第57号特集号では「建物と本」をテーマに発行しました。

図書館通信発の企画が映像でもお楽しみいただけます。紙面では語りきれなかった建物の魅力を、学芸員がより詳しく解説しています。

全4回で豊島区公式YouTube「としまななまるチャンネル」で配信中です。

- 第１回　豊島区立トキワ荘マンガミュージアム
- 第２回　豊島区立雑司が谷旧宣教師館
- 第３回　自由学園明日館
- 第４回　豊島区立鈴木信太郎記念館

図書館オンライン講座

「本はともだち～書評講座～」配信中

毎年中央図書館で実施している書評講座のWeb講座が開講しました！豊島区公式YouTube「としまななまるチャンネル」で、いつでもご覧いただけます。隙間時間に気軽にご受講いただけます。

講師　佐藤 壮広　氏（書評家、人類学者、立教大学・大正大学等非常勤講師）

◎ 千早進歩自由夢（ちはやしんぽじゆうむ） ◎

◉ 三遊亭窓輝落語会
【日時】　2月27日（土）
午後2時～4時
（開場：午後1時30分）

千早進歩自由夢「三遊亭窓輝落語会」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催が中止となりました。

千早進歩自由夢の申込・問合せ先
豊島区立千早図書館
〒171-0044　豊島区千早2－44－2
電話　3955－8361

図書館カレンダー

開館時間

中央図書館	駒込・上池袋・千早図書館	巣鴨・目白図書館	雑司が谷図書貸出コーナー
平日　午前10時～午後10時 土日祝　午前10時～午後６時 ※駒込図書館は、平日は、午前８時から資料の返却と、予約資料の受取りができます。	●駒込・上池袋● 平日　午前９時～午後８時 土日祝　午前９時～午後６時 ●千早● 平日　午前９時～午後７時 土日祝　午前９時～午後６時	●巣鴨● 平日　午前９時～午後７時 土日祝　午前９時～午後６時 ●目白● 平日　午前９時～午後８時 土日祝　午前９時～午後６時	平日　午前10時～午後７時 土日祝　午前10時～午後５時

○は土日祝の開館時間　■は休館日

休館のおしらせ

※池袋図書館は修繕工事のため、令和３年３月31日まで休館となります。

※豊島区立図書館（雑司が谷図書貸出コーナーを含む）はシステム作業のため、令和3年2月19日(金)午後6時～2月20日(土)全日まで臨時休館いたします。

編集後記

お祝い事に使われる「ハレ」の色。白は「始まり」赤は「喜び」を意味するそうです。2021年図書館通信の始まりを「赤」にしてみました。皆さまにとって良き１年になりますように。（坂）

今回の冬号で３つの連載コーナーが最終回となります。各コーナーをご愛読いただきありがとうございました。次号からの新連載もぜひ楽しみにお待ちください！（小）